

丹波焼 (たんばやき)

商標登録

第 6010168 号

商標

丹波焼

権利者

丹波立杭陶磁器協同組合  
(兵庫県篠山市今田町上立杭 3)

指定商品又は指定役務

篠山市今田町周辺の粘土を主要な原材料として篠山市今田町及びその周辺で生産された陶磁器製のなべ、ティーポット・きゆうす・コップ・杯・カップ・皿・サラダボール・鉢・茶わん・徳利・ぐい呑・注器・水差し・湯のみ・わん・酒用サーバー・ミルク用ピッチャー、つぼ、食品保存用容器、こうしょう入れ・砂糖入れ及び塩振り出し容器、盆、ようじ入れ、すりばち、膳、大根卸し、なべ敷き、はしおき、ろうそく立て、植木鉢、貯金箱、花瓶及び水盤、香炉、土瓶型・容器型・皿型・筒型・たぬき型・蛙型その他の動物型・ふくろう型その他の鳥型・人型・家型・地蔵型・たけのこ型の置物、剣山、瓶、鉢カバー、花入、つくばい、ワインクーラー、香立て、調理用陶板



連絡先・関連HP

連絡先：079-597-2034

関連HP：<https://tanbayaki.com/union/uniongaiyo.html>

商品・サービスの特徴

丹波焼は日本六古窯のひとつに数えられ、その発祥は平安時代の終わりから鎌倉時代の初めと言われていています。

丹波焼は大別して穴窯時代と登窯時代とに分けられ、桃山末期までの 400 年間は穴窯が使用されていましたが、慶長 16 年(1611)ごろ朝鮮式半地上の「登り窯」が導入され、同時期に取り入れられた蹴りロクロ(日本では珍しい立杭独特の左回転ロクロ)とともに、伝統技術を今日に受け継いでいます。

窯が開かれてからおよそ 800 年、丹波焼は一貫して日用雑器を主体に今日まで焼き続けており、灰釉や鉄釉などによる素朴で飾り気がなく野趣味たっぷりの湯呑・皿・鉢・徳利・ぐい呑・壺・花瓶など「生活用器」の生産を身上としています。